

◆ 佐潟のようすⅠ

今年の佐潟は珍しい風景が・・・ハスの群生地に異変が生じました



ハスの群生で多くの皆様に癒しと元気を与えていた夏の佐潟ですが、今年は生育が遅く、ハスの茎や葉すらほとんど湖面から見えない状況です。湖面のハスを期待していた皆様も多いかと思いますが、例年のようなハスの群生地を観ていただくのは厳しく、大変残念に思っております。過去にもハスが繁茂しない時期があったと地元の関係者から伺いました。いずれにしても原因の特定が望まれています。

◆ 佐潟のようすⅡ



* 佐潟の水深調査始まる

潟の水質と地質が生態系への影響を懸念し、新潟市(委託先: NPO法人新潟水辺の会)は、水質調査、湖底の泥の堆積調査に取り組みました。船外機で湖面から測定器を使い湖面全域を調査したところ、佐潟は平均水位0.6M、湖底の泥の厚さは0.3~2.0Mと分かりました。アオコの発生による水質悪化と湖底の泥の厚さが多くの水生植物に影響することが懸念されます。

◆ 佐潟のようすⅢ

* 佐潟で観察できた鳥・植物(絶滅危惧種)を紹介



今年もカンムリカイツブリの親子が湖面で子育てをしている姿を見せてくれました。ヒナが孵化すると親鳥は背中に乗せて餌を捕りに移動します。幼鳥は顔周りが縞々模様でシマウマのような顔つきをしています。



今年は、観察舎付近で見ることができました。

夏を感じるミズアオイを紹介します。ミズアオイは絶滅危惧種。昔は佐潟周辺の水田でよく見られていましたが、近年激減しています。



自然生態園入口付近で観察できました。

ハンゲショウ(7月上旬開花)は、葉が上部より半分ほど白く変色するため「半化粧」と呼びます(諸説あり)。全体に独特のにおいがします。

◆ 佐潟のようすⅣ 夏休み特別企画

…水辺の生き物観察会…

7月の猛暑の中、佐潟ボランティア解説員の案内で潟の小魚などを捕まえてたくさんの種類と生き物の動き等を観察しました。初めて見る雷魚(カムルチー)に感動する場面もあり楽しんで頂きました。



…ぼくとわたしの夏休み…

「佐潟と歩む赤塚の会」との共催で、夏の生き物を観察しました。「新潟大学いきものサークル」の6名が案内役になり佐潟水鳥・湿地センターから自然生態園へ向かいました。生物多様性の大切さを理解できるように上手に指導してくれました。子供たちはカブトムシやカマキリなどを見つけて喜んでいました。



◆ 佐潟のようすⅤ センター主催事業

佐潟探検隊(さかたん)

さかたん2回目では佐潟まつりで好評の絵燈籠を手作りしました。子供たちはそれぞれの願いを込めた絵に色付けを行い漕舟に乗り潟に流して水への感謝を楽しんで頂きました。

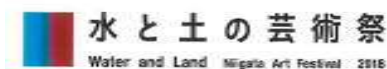


◆ 佐潟のようすⅥ 佐潟の砂丘を楽しむ 佐潟から砂丘へアプローチ

「新潟砂丘遊々会」による佐潟から日本海側の砂丘を学ぶ砂丘ウォーキングが開催されました。7月21日高気温の中、参加者20名は3時間、歩きの楽しさと砂丘の仕組みを学ぶため澤口講師の説明に聞き入っていました。全長約76kmにも及ぶ日本最長級の新潟砂丘の南部に位置する広大な赤塚砂丘は、ほぼ全域が農地となっており、その地形は、砂の量や風速・風向などの違いによって、時間の経過の中で様々な表面形態を生じていたことがわかりました。



◆ 佐潟のようすⅦ



水と土の芸術祭

Water and Land Niigata Art Festival 2016

今年で第4回を迎える「水と土の芸術祭」が始まりました。「過去と現在(いま)を見つめ、未来を考える」の理念のもと新潟の特徴を国内外にアピールし、これまでにない新しい新潟の魅力を生み出して行きます。各プロジェクトに参加し新潟の魅力を体験してください。

佐潟水鳥・湿地センターではスタンプラリーを設置してあります。パーフェクト賞を目指して皆様のご来館をお待ちしております。



佐潟水鳥・湿地センター利用のご案内



(写真:水門近くの佐潟橋)

ラムサール条約湿地

【開館時間】9:00~16:30(冬期間11月から2月の土・日は7:00から)
【休館日】月曜日(祝休日の場合は翌日)、年末年始(12月29日~1月3日)

編集 佐潟水鳥・湿地センター

〒950-2261 新潟市西区赤塚5404番地1

電話025(264)3050 / FAX 025(264)3051

E-mail: sakata.wlc@alpha.ocn.ne.jp

発行 新潟市西区役所地域課文化・スポーツ担当

〒950-2097 新潟市西区寺尾東3丁目14番41号

電話025(264)7193

佐潟についての情報、質問等ありましたら、お気軽にご連絡ください。